



# 2004年度 決算説明会

2005年4月28日

富士通フロンテック株式会社

(財)財務会計基準機構会員



## 本日の内容

- ・ 事業環境と今後の展望について
- ・ 2004年度損益状況・  
2005年度損益予想  
及び経営トピックス
- ・ トピックス及び新たな取組み



# ・事業環境と今後の展望について

## 1.昨年度までの取組み状況

(1) 新紙幣対応は04年度上期で完了

(2) 新市場、新分野への事業展開

手のひら静脈認証装置

金融機関様向けでは、既に運用中

入退出管理用としても運用開始(05年2月)

流通店舗向けSCO (Self Check Out) System

和歌山のオークワ様で運用開始(04年12月)

ATM運用サービスの拡販(5ユーザ、635台)

UHF帯RFID関連商品を開発(05年6月から出荷予定)

(3) ソフトサービスビジネスの強化(05年2月)

- ・ 富士通のPOSシステム開発およびサービス業務の移管
- ・ 富士通よりソフト開発会社の株式の譲り受け

システム開発からサービス業務まで一貫したビジネスの展開を開始

## 2. ビジネス環境

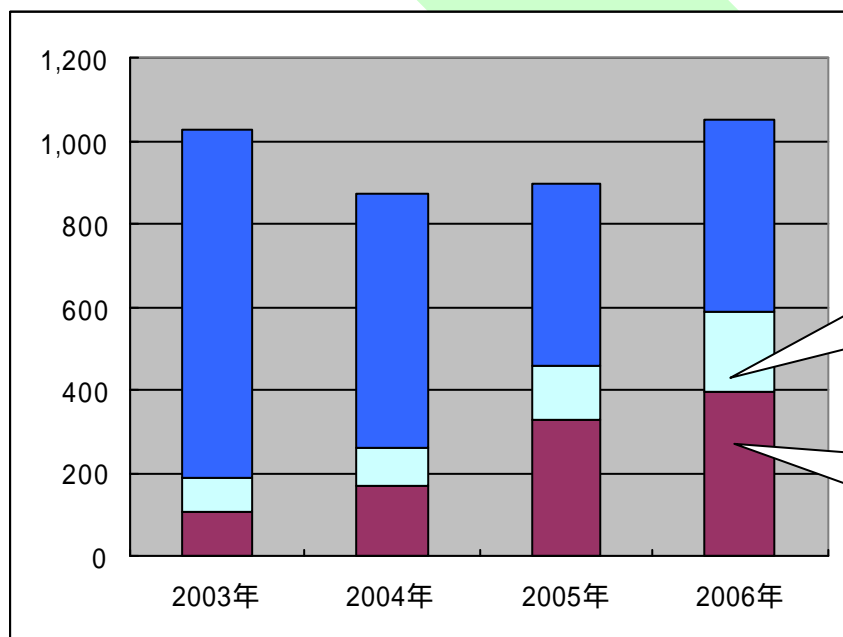
- ・ 既存市場の成熟、リプレース市場
  - 自動機は新紙幣発行への改造/リプレースの反動(04年度下期～)
  - 公営競技向け端末は次期システム導入までの端境期中
- ・ 資産のオフバランス志向の強まり(ATM等)
- ・ セキュリティ強化対策の広まり
  - 偽造カード犯罪の増加や個人情報保護法の施行  
ICカードの導入・手のひら認証機能の装備  
RFIDのトレーサビリティ機能を活用した重要書類管理

### 3. 事業方針

- ・ソフトサービス・新規ビジネスへの注力により成長
  - プロダクトからサービスビジネスへの事業領域の拡大
  - 顧客満足度向上による既存事業の拡大
- ・グローバルビジネス拡大による商品競争力向上と事業拡大

(億円)

売上推移(連結)



年率10%の成長率

#### グローバル

- ・ATM装置
- ・POS、HHT他
- ・メカユニット

#### ソフトサービス・新規ビジネス

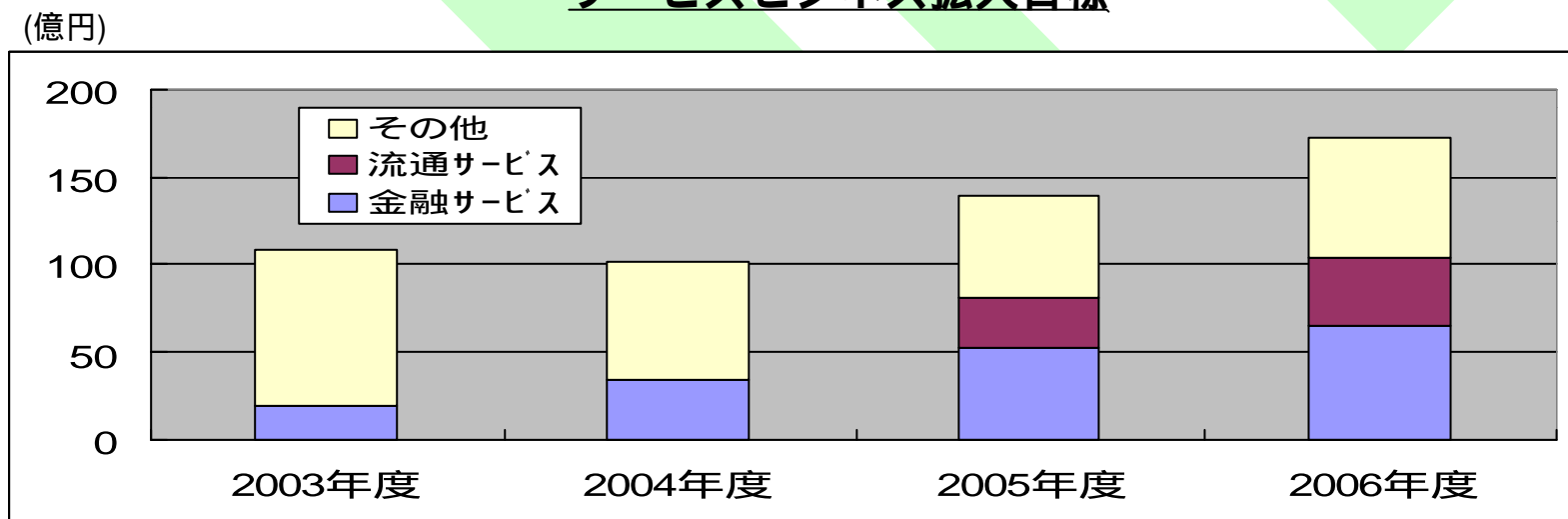
- ・金融/流通サービス他
- ・手のひら認証/RFID他

## 4. 重点施策

### (1) 既存市場においてお客様に満足いただける商品とサービスの提供

- ・生産改革(トヨタ生産)による品質の向上と生産性向上(2倍)
- ・サービス商品の拡充
  - 金融サービス: ATMアウトソーシング/監視サービス、インストールサービス
  - 流通サービス: 導入支援(インストールサービス)、運用支援(POSヘルプデスク)

#### サービスビジネス拡大目標



## (2) グローバル市場への商品提供

### グローバルPOS

- ・世界共通仕様の新POSを富士通海外子会社と共同開発中
- ・グローバル所要(年間6万台)にもとづくボリュームメリットによる低コストを追求 当社は日本・アジア・オセアニアへ商品供給  
プリンタ
- ・中国向け通帳・伝票プリンタの現地子会社での量産開始  
(4万台/今後3年間)
- ・航空券発券プリンタの供給(欧州向け) (2万台/今後3年間)  
紙幣入出金ユニット
- ・韓国: 品質向上とOEM先との連携強化による拡販
- ・中国: 地場ATMメーカー向け出金機シェア拡大(現状20% 07年度30%)
- ・北米: SCO用の小型出金機の販売開始



### (3) 新規ビジネスの創出と拡大

手のひら認証

小型化により金融機関および流通店舗などへの普及  
(立上げから普及期へ)

UHF帯によるRFIDタグの利用領域拡大

新たな取組み

- ・SCO:国内市場普及に向けた小型商品の提供
- ・サービスロボット:数ユーザで実証実験予定(05年上期より)

富士通フロンテックは、既存市場でお客様に満足いただける商品とサービスを提供するとともに、先端技術による新市場・新分野事業を積極的に拡大してまいります。

・2004年度損益状況・

2005年度損益予想及び経営トピックス

1. 2004年度損益状況
2. 2005年度損益予想
3. 経営トピックス

## 1. 2004年度損益状況

2004年度の状況

2004年度決算(連結)

部門別売上高・営業利益(連結)

貸借対照表(連結)

研究開発費他(連結)

経営指標(連結)

## 2004年度の状況

### 金融・自動機部門

- ・新紙幣関連は上期で終息(03年下期～04年上期270億円)
- ・手のひら静脈認証装置搭載型の営業店端末などを東京三菱銀行などへ供給(約3,000台)
- ・ATMアウトソーシングサービスを東京スター銀行などへ供給開始(約1,000台)
- ・韓国向けメカコンポーネントのOEMビジネス開始(約1,400台)

### 流通部門

- ・小型POS(省スペース対応型)を三越百貨店などへ供給(約4,000台)
- ・セルフチェックアウトシステム(SCO)を中堅スーパーへ販売
- ・UHF帯域を利用したRFIDを製品化

### 表示部門 その他

- ・(表示部門) 交通、せり、広告関連は伸長
- ・(その他) 医療器設備用部品などが好調

### ソフト・サービス事業の統合

富士通よりソフト会社を買収、富士通流通ソフトおよび流通向けヘルプデスクを統合

## 2004年度決算(連結)

[ 単位：億円 ]

摘 要	2003年度	2004年度			
		(1/28) 前回予想	実 績	差 異	比率 前年度比
売上高	1,029	872	870	2	< 84.5 %> 159
営業利益 (利益率)	57 (5.5%)	48 (5.5%)	46 (5.2%)	2	< 80.7 %> 11
経常利益 (利益率)	41 (4.0%)	38 (4.4%)	38 (4.4%)	0	< 92.7 %> 3
当期純利益 (利益率)	23 (2.2%)	18 (2.1%)	16 (1.9%)	2	< 69.6 %> 7

## 部門別売上高・営業利益(連結)

[単位: 億円]

売上高	部門	2003年度	2004年度	
			実績	<比率> 前年度比
	金融・自動機	776	641	<82.6%> 135
	流通	165	148	<89.7%> 17
	表示	72	62	<86.1%> 10
	その他(工機他)	16	19	<118.8%> 3
	計	1,029	870	<84.5%> 159
営業利益	金融・自動機	65	58	<89.2%> 7
	流通	11	13	<- %> 2
	表示	0	2	<- %> 2
	その他(工機他)	3	3	<100.0%> 0
	計	57	46	<80.7%> 11

## 貸借対照表(連結)

[ 単位 : 億円 ]

<資産の部>	2003 年度末	2004 年度末	<負債の部>	2003 年度末	2004 年度末
流動資産	459	380	流動負債	279	203
現金及び預金	93	85	支払い手形及び 買掛金	203	143
受取手形及び売掛金	248	164	その他	76	60
棚卸資産	102	109	固定負債	30	33
その他	16	22	退職給付引当金	29	20
固定資産	117	136	確定拠出年金移行時未払金	-	12
有形固定資産	88	88	その他	1	1
無形固定資産	13	27	負債合計	309	236
投資その他の資産	16	21	<資本の部>		
資産合計	576	516	資本金	84	84
			その他剰余金	183	196
			資本合計	267	280
			負債、少数株主持分及び資 本合計	576	516

## 研究開発費他(連結)

[ 単位：億円 ]

摘 要	2003年度		2004年度	
研究開発費	131	売上高比 12.7%	109	売上高比 12.5%

摘 要		2003年度		2004年度	
設備投資	投資額	19	売上高比 (差異) 16	21	売上高比 (差異) 2
	(内 無形固定資産)	(7)	(7)	(8)	(1)
	減価償却費	20	6	20	0
	(内 無形固定資産)	(5)	(3)	(6)	(1)

棚卸残高	102	37	108	6
棚卸回転率	10.1回		8.0回	



## 経営指標(連結)

摘 要	2003年度	2004年度
営業利益率	5.5 %	5.2 %
経常利益率	4.0 %	4.4 %
当期純利益率	2.2 %	1.9 %
EPS (1株当たり利益)	93.3 円	65.6 円
PER (株価収益率)	13.77 倍	20.38 倍
ROE (株主資本純利益率)	8.9 %	6.0 %
総資本経常利益率	7.6 %	7.0 %
配 当 金	11 円	12 円
株 主 資 本 比 率	46.3 %	54.2 %
BPS (1株当たり株主資本)	1,108.37 円	1,162.75 円
PBR(株価純資産倍率)	1.2 倍	1.2 倍
営業キャッシュフロー	9,367 百万円	4,560 百万円
手許流動性比率	1.08 倍	1.16 倍

(単独)

## 2. 2005年度損益予想

2005年度計画(連結)

部門別売上高・営業利益(連結)

新部門別内訳について

2005年度のまとめと2006年度の見通し

## 2005年度計画(連結)

[ 単位 : 億円 ]

摘 要	2004年度 実績	2005年度	
		計画 (公表値)	比率 前年度比
売上高	870	900	< 103.4 % > 30
営業利益 (利益率)	46 (5.2%)	32 (3.6%)	< 69.6 % > 14
経常利益 (利益率)	38 (4.4%)	20 (2.2%)	< 52.6 % > 18
当期純利益 (利益率)	16 (1.9%)	11 (1.3%)	< 68.8 % > 5

## 部門別売上高・営業利益(連結)

2005年は部門を再編しております。

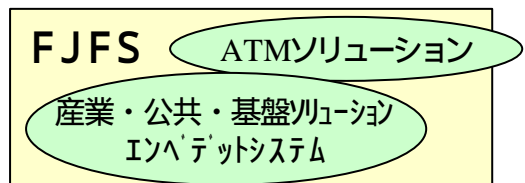
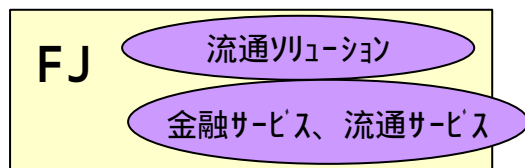
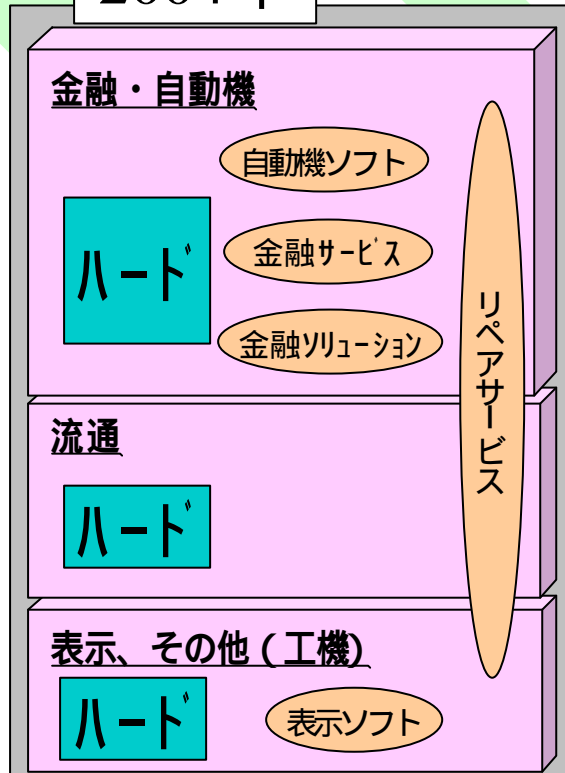
[単位：億円]

売上高	部 門	2004年度 実績	2005年度	
			計画	< 比率 > 前年度比
	金融システム	555	387	<69.7 %> 168
	流通システム	137	213	<155.5%> 76
	産業・公共システム	81	83	<102.5%> 2
	ソフトサービス	97	217	<223.7%> 120
	計	870	900	<103.4%> 30

営業利益	金融システム	53	9	<17.0%> 44
	流通システム	13	5	< - %> 18
	産業・公共システム	1	3	<300.0%> 2
	ソフトサービス	5	15	<300.0%> 10
	計	46	32	<69.6%> 14

# 新部門別内訳について

2004年



2005年以降



## 2005年度のまとめと2006年度の見通し

### 2005年度のまとめ

04年で新紙幣対応が終息およびトータリゼータ端末の  
現行システム一巡の最終年による売上・利益の減少  
営業店端末の統合需要による増加やグローバルビジネスの伸長  
流通システムはPOSのリプレイス時期到来と新機種投入  
ソフト・サービスの統合によりSI、サービス体制の整備・強化

### 2006年度の見通し

既存システムの回復  
・市場の当社主力旧型自動機のリプレイス時期が到来  
・トータリゼータ端末の次期システムの立上げ  
・NCR・韓国向けATMメカコンポーネントの伸長  
新型POSの拡販  
SI、サービス、アウトソーシングビジネスの本格的拡販  
新ビジネスの本格立上げ（手のひら静脈認証装置、RFID等）

06年以降は、既存システムの回復とソフト・サービスビジネスの本格的な  
拡販等により、05年をボトムに攻勢に転じV字回復を図ります。

### 3. 経営トピックス

ソフト開発会社の買収について

退職金・年金制度改訂

ものづくり革新活動の推進

## ソフト開発会社の買収について (ソフト・サービスビジネスの強化)

(株)富士通ターミナルシステムズ[富士通100%子会社:前橋]を  
取得価額 28.4億円 で買収(2005年2月1日)

同日付で(株)富士通フロンテックシステムズ(FJFS)に社名変更

事業内容:金融・流通向け情報処理関連機器のハード・ソフトウェアの  
開発、販売およびこれらのコンサルティング業務

2004年度業績:売上高 110億円  
営業利益 9億円 (従業員540名)

### ソフト・サービス体制

(旧)約240名

↓ +340名 (FJFS 250名  
富士通 90名)

(新)約580名(ソフト・サービス事業本部)

2005年度売上高への寄与

<SIおよびサービス商品の拡充>

約140億円

ハード、ソフト、サービスの三位一体の事業を加速推進  
拠点として大宮ソリューションセンターを開設(4月)約400名



# 退職金・年金制度改訂

## 【従来制度】

### ●退職金

定年退職等長期勤続を想定した  
年功要素の高い退職金制度

### ●年金

適格年金制度(定年退職金の40%)

- ・年金給付利率5.5%  
運用環境低迷時は逆ザヤが発生
- ・年金法改正  
2012年適格年金廃止

- ・年功要素を  
圧縮
- ・在職中の成果  
を反映

- ・運用リスクの低減
- ・法改正への対応

## 【新制度】

キャッシュバランスプラン(70%)

確定拠出年金制度

[日本版401K](30%)

### 退職金・年金の算定

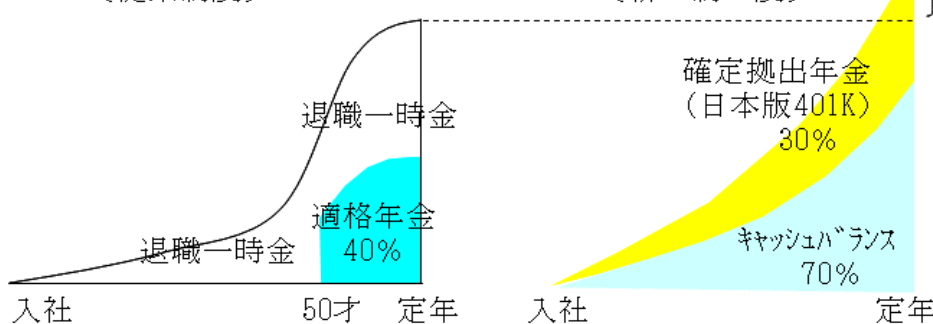
毎年2種類のポイントを付与、累積  
結果が退職金・年金原資となる

- 「役職グレード/成果」ポイント
- 「勤続」ポイント

〔従来制度〕

〔新制度〕

水準アップ



## 【会計への影響】

確定拠出年金制度導入による

- ・退職給付債務の圧縮 57億円 37億円 (20億円)
- ・未積立部分の一括償却 特別損失6.4億円

これにより会計基準変更時差異 年3.8億円(2000年から10年償却) 年2.5億円

## 【改訂効果】

- ・成果反映、わかりやすさ  
モラルアップ
- ・選択肢の拡大  
多様化するライフプランへの対応
- ・年功要素少、確定拠出導入  
優秀な人材の確保
- ・運用リスクの低減
- ・節税効果

# ものづくり革新活動の推進

## ものづくり活動推進のポイント

トヨタ生産方式のコンセプトに合ったものづくりに変革

- 自動化〔製造ライン改革〕
- ジャスト・イン・タイム推進〔部品調達・生産オペレーションの改革〕
- 新たな視点から〔外部コンサルタント指導会〕

## 推進スケジュール

	2003	2004年				2005年				
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
04年1/20	● キックオフ	◆ 指導会		◆ 指導会		◆ 指導会				
● 自動化	導入教育 (2S)	整流化、間締め、同期化				1個流し (社内かんばん)		後工程引取り		
● JIT推進								レベルアップ		

## 活動推進内容

- 整流化〔流れがひと目で分かる一直線のライン〕
- 工程間の間締め〔流れ棚・応援助け合い〕
- 同期化〔サブアセンブリのインライン化・ユニット組立と装置組立の連結〕
- 一個流し〔社内かんばん運用・みずすまし運用〕
- 後工程引取り〔社外かんばん運用・ルート便運用〕

活動スローガン

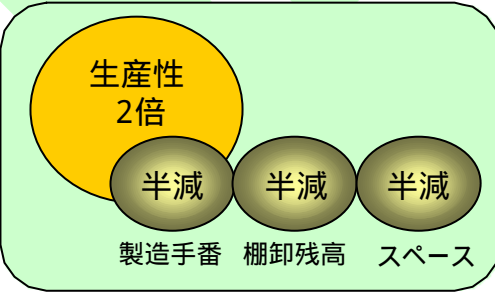
変わろう 意識

変わろう 行動

変わろう FTEC

- FTECものづくり革新活動 -

目標



改善効果

ATM:2005.1月現在)

作業能率:	25台/100h	32台/100h
		22%UP
製造手番:	3.1日	1.9日
		1.2日( 39%)
スペース:	2,565m <sup>2</sup>	1,665m <sup>2</sup>
		900m <sup>2</sup> ( 35%)